

# あべともこニュース

## 健康保険証の存続を求めます。

◆保険証の廃止は誰がいつ、どこで決めた？

6月30日、阿部知子が衆議院議長に出した「マイナ保険証に関する質問主意書」に対し、岸田文雄総理大臣から回答が届きました。

最初に、いつどのような手続きで政府は健康保険証の廃止を決定したのかを質問しました。回答は、昨年10月28日「物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策」の中に明記。その後、マイナナンバー法等改正法案（国民健康保険法等が束ねられている）を提出し、今年6月2日に成立して確定とのこと。

実は、昨年6月7日に閣議決定された「骨太の方針2022」には、2024年度中に今の健康保険証とマイナ保険証の選択制の導入を目指すとあります。ところが、10月13日に河野デジタル大臣が、記者会見で突然2024年秋の健康保険証の廃止を宣言。10月28日の閣議決定より先のことです。適切な手順を踏んだとは到底思えません。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県12区（藤沢市・寒川町）  
 当選8回、東京大学医学部卒業、  
 小児科医、あべともこ子ども  
 クリニック（湘南台）理事長  
 現在、厚生労働委員会  
 原子力問題調査特別委員会委員



あべともこ  
公式Twitter  
@abe\_tomoko

[https://twitter.com/abe\\_tomoko](https://twitter.com/abe_tomoko)



あべともこ  
公式Facebookページ

<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ

検索



出典：KOBESTING CLUB ブログ

◆デジタル化は？何のため誰のため？  
 マイナンバーカードの取得には本人の申請が必要ですが、子ども、高齢者、障害者など一人ではマイナンバーカードが取得できない人たちが大勢います。また取得したくないという人もいます。

健康保険に加入している人に交付される保険証とは全く意味が違います。また、マイナ保険証を取らない人には、新たに「資格確認書」を発行して対応すること。しかしこれも本人の申請が必要。国会の答弁では、介護施設に入所している人などについては、今まで通り職権（行政が持つ職務上の権限）で発行すること。なぜ、こんな煩雑で人の尊厳を踏みにじるようなことするのでしょか？！

だれのための、何のためのデジタル化なのか原点に戻って問い直す必要があります。

◆福島第一原発の今

6月22日、23日、超党派議連「原発ゼロ・再エネ100の会」事務局は、韓国とともに民主党議員とのズーム会議に続いて、正義党議員団と東電福島第一原発を視察。今夏にも放出されるALPS処理「汚染」水は安全面の科学的検証が不十分であると太平洋諸国からも批判が出ており、韓国議員団からは東電に対して計画の見直し等が訴えられました。

視察では、市民団体・現地関係者とも意見交換。処理水問題だけでなく、帰宅困難地域が解除されたとはいえ、震災後手付かずの住居等がある中、なぜ政府は原発回帰に向かうのか？一向に見通しのたたない廃炉計画をどうするかなど、多岐に渡る課題が議論されました。

1Fには処理水汚染タンクがぎっしりと並んでいます。今後も水をかけ続けられれば汚染水は増え続けます。

放射性物質の廃棄は、共有の海の環境を汚し、断固認められないことを改めて確認しました。

あべともこ後援会入会及び、ボランティアスタッフ募集中！



写真：阿部知子も「原発ゼロ・再エネ100の会」事務局長として意見交換会に参加しました。